

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 塩竈市立玉川中学校 】

1 実践テーマ	I , III, V
2 実施対象者 (学年・人数)	<p>全校生徒 (370名)</p> <p>第1学年 (男子49名, 女子59名, 計108名)</p> <p>第2学年 (男子68名, 女子67名, 計135名)</p> <p>第3学年 (男子64名, 女子63名, 計127名)</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育, 総合)</p> <p>② 行事名 (体育祭)</p> <p>③ その他 (部活動: トレーニング講習会, ひろとも運動)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの歴史を知り、調べ学習を通して、時代とともに変化してきた大会の在り方や、種目の広がりなどについて、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。 ・専門性の高い指導者から、様々なトレーニング実践を学び、体を動かすことの楽しさや、目標の実現に向かって挑戦しようとする意欲を高める。
5 取組内容	<p>〈事前準備〉</p> <p>令和元年7月 事前アンケート調査実施 (全校生徒対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識調査 <p>〈実施内容〉</p> <p>1) 令和元年10月3日(木) 全校生徒対象 講演会</p> <p style="padding-left: 20px;">「オリンピック・パラリンピックをもっと知って、楽しもう①」</p> <p>(1) 全校生徒を対象に、オリ・パラ教育の調べ学習を行うことや、そのねらい、活動予定について発表した。</p> <p>(2) 宮城教育大学講師 沼倉 学氏の講演会</p> <p style="padding-left: 20px;">〔主な内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの歴史 ・オリンピック・パラリンピックの競技種目 ・オリンピック・パラリンピックのマーク ・オリンピック・パラリンピックと平和 ・オリンピック・パラリンピックと女性スポーツ ・オリンピック・パラリンピックと環境問題 ・身近なオリンピック・パラリンピック

2) 調べ学習（部活動ごと 第1・2学年対象）

講演会を終えて、一人一人が興味、関心を持った内容について調べ学習を開始

(1) 部活動ごとによる活動（第1・2学年）

(2) 学級の生活班による活動（第3学年）



3) 令和元年11月8日（金）運動部対象（第1・2学年）

トレーニング講習会

宮城県塩釜高等学校教諭 陸上部顧問 鈴木貴博氏を講師に迎えて、11競技種目の運動部活動生徒を対象にウォーミングアップを始め体幹トレーニングなどの練習会を実施した。

〔主な内容〕

- ・ウォーミングアップ
- ・体幹トレーニング
- ・ストレッチング



4) 令和元年11月21日(木) 第3学年対象

(1) 第2回 講演会

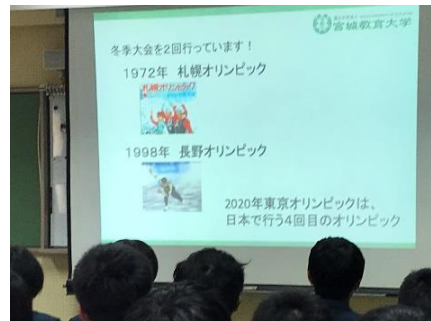
「オリンピック・パラリンピックをもっと知って、楽しもう②」

宮城教育大学講師 沼倉学氏の講演会

〔主な内容〕

- ・オリンピックの開催都市
- ・オリンピズムの根本原則
- ・オリンピック・パラリンピックとジェンダー

(2) 調べ学習開始(第3学年)



〈事後指導〉

令和元年12月 事後アンケート実施

- ・意識調査

6 主な成果

- 本校は、地域と連携を密にしている。その一つの「ひろとも運動」では、ボランティア活動の一環として、学校周辺のゴミ拾いを、部活動ごとに行っている。また、第3学年で行う「赤ちゃんふれあい体験」や、全校生徒が各地区で取り組む防災訓練も、地域の中で自ら共生社会を構築するために欠くことのできない活動である。さらに、第2学年の総合的な学習の時間では、オリンピックとの交流事業「スポーツ笑顔のプロジェクト」を通して、スポーツに対する関心を高める活動を行ってきた。
- 全校生徒対象に行った講演会は、オリンピックの在り方について広い視点で学ぶ機会となり、生徒の気付きや考える機会にもなって、調べ学習の意識付けとして有効であった。
- 生徒が所属している部活動の歴史や、様々な競技種目について知ることによって、オリンピック・パラリンピックを楽しみにする生徒が増えた。特に、パラリンピックに対する思いが高まり、「障害のある人の迫力あるパフォーマンスをテレビや競技場で見てみたい」と考える生徒が生まれ、意識の変容が見られた。
- トレーニング講習会で学んだ実践を、その後の部活動や駅伝練習でも継続的に取りこませることで、自主的にトレーニングを行ったり、意欲的に活動したりする生徒の姿が見られるようになった。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

- オリンピック・パラリンピックに関連する図書を充実させ、調べ学習に活用した。
- 図書室前に「オリンピック・パラリンピックロード」を作り、オリンピックイヤーを身近に感じられるように展示した。また、部活動ごとにまとめたレポートも掲示した。
- 運動部を対象にトレーニング講習会を実施し、その後の教育活動におい

ても、トレーニングを継続的に行う機会を取り入れている。



8 主な課題等

- 調べ学習は、放課後の部活動の時間内に実施したことで、「練習時間が減らされる」などの意見があった。
- オリンピック以外の講師選定等には限界があるので、各地域が連携して依頼できる組織体制が必要だと感じた。
- 全運動部を対象に行ったトレーニング講習会（11月）は効果的であった。しかし、100名以上の生徒が体育館でトレーニングするのは難しかった。場所と時期を検討することも必要であった。

9 来年度以降の実施予定

- 事業の継続については検討中であるが、トレーニング講習会を通して、運動することの楽しさを味わわせ、体力向上を図る活動は、継続的に行っていきたい。
- パラリンピック種目の体験等、広い視点でスポーツを経験させたい。